

スポーツ経験が人間性（性格やふるまい、ものの考え方）へ与える影響についての研究

1230423 大崎凜

指導教員 中川善典

研究背景

私がこのテーマの研究を始めるに至った動機は、私自身が甲子園出場というスポーツでの経験から、コミュニケーション能力の向上という人間性の成長を感じたからだ。別の人間が同じスポーツ経験をした時、違う人間性の部分にも影響が見られるのではないかと考えたのがこの研究の始まりである。先行研究「アスリートに求められるライフスキルの評価-大学生アスリートを対象とした尺度開発-島本好平・東海林祐子・村上貴聡・石井源信(2013)スポーツ心理学研究 40(1)」では、ライフスキルとは「生きる力」を構成する基本的なスキル、「人としての成長を促す能力」だとされており、アスリートは経験を通じて獲得可能であるライフスキルを効果的に獲得することができる環境にあると言われている。

研究目的

先行研究では見つからなかったライフスキルを探索することと、スポーツ経験からライフスキル獲得のプロセスを明らかにする。

調査・分析方法

Google フォームを用いた記述式のアンケート調査。対象者は運動部所属者又は、スポーツ経験者である。内容は、所属部と競技歴、競技成績という基本情報と、自身のスポーツ経験から獲得したライフスキルとその経緯（200字から500字という指定での自由記述）についてである。その結果を分類し、新しいライフスキルと獲得のプロセスを見つける。

分析結果

新しく8つのライフスキルを発見することができた。また、スポーツ経験からライフスキル獲得の流れは、①きっかけとなるエピソード→意識・行動の変化→ライフスキル獲得、②運動部に所属する→意識・行動の変化→ライフスキル獲得、③運動部に所属する→自然とライフスキルが身につく（礼儀や挨拶）の3パターンにまとめることができた。

結論

スポーツ経験が人間性に与える影響について、ライフスキルの観点から研究を進めてきた。運動部に所属するだけでライフスキルを獲得した例や、対戦相手に敗北するという挫折経験からもライフスキルを獲得できることが分かり、全てのスポーツ選手がライフスキルを獲得することができると言える。よって、スポーツ経験は人間性へ与える大きな影響力を持っている。